

プロジェクト研究「21世紀の特殊教育に対応した教育課程の望ましい
あり方に関する基礎的研究」（平成13年度～平成15年度）資料

主要国における特殊教育に対応した 教育課程の調査研究

平成 16 年 3 月

独立行政法人
国立特殊教育総合研究所

はじめに

近年、「確かな生きる力」「基礎・基本」が議論となっている。教育課程の基準は、学校教育において、児童生徒が確実に身につけてほしい基礎・基本の基準でもある。児童生徒の確かな学びを確実なものにするためには、児童生徒が何を学び、どれだけの力をつけたかの評価を明確にすることが求められる。児童生徒の学習における達成度を的確に捉え、学習内容・方法を改善させていくことは、学校の重要な機能であろう。

また、教育課程の基準は、児童生徒が学校教育において身につける確かな生きる力について、教師、児童生徒自身、保護者、地域社会が、明確に共通理解するための道具でもある。

このことは、通常教育だけでなく、特別な支援を必要とする特別支援教育においても当然のことである。今、教育の均等さ（Equity）が再度議論となっている。今後は、このような議論を踏まえて、多様な児童生徒のニーズに応じて、適切な学習内容を提供し、適切な評価基準を準備できるように、教育課程の基準のあり方を検討していくことが必要であろう。

また、「特別支援教育」をキーワードに、従来の特殊教育の見直しが進んでいる。この中でも特殊教育における教育課程の基準の見直しは、核となる課題であろう。さらに、小中学校において特別支援教育を推進していく上でも、その教育課程の基準をどうするかは、大きな課題となる。このような意味で、本プロジェクト研究は大きな課題にチャレンジしたものとする。

本資料は、プロジェクト研究「21世紀の特殊教育に対応した教育課程の望ましいあり方に関する基礎的研究」（平成13年度～平成15年度）の外国調査グループが中心になり作成したものである。報告書は、イギリス、ドイツ、イタリア、アメリカ、フランスを対象として、文献研究や実地調査の情報をもとに構成されている。調査実施にあたり、国内外の関係者に多大なご協力をいただいたことを感謝するとともに、本研究に対して忌憚のないご意見やご要望をいただけるようお願い申しあげる。

平成16年 3 月

研究代表者

独立行政法人国立特殊教育総合研究所

総合政策情報センター

プロジェクト研究部門長

穴 戸 和 成

プロジェクト研究「21世紀の特殊教育に対応した教育課程の望ましいあり方に関する
基礎的研究」（平成13年度～平成15年度）資料

主要国における特殊教育に対応した教育課程の調査研究

目 次

はじめに	宍戸 和成
I 研究の概要	1
II 主要国における特殊教育に対応する教育課程の概要	5
III 主要国における特殊教育に対応する教育課程	
イギリスにおける特殊教育の教育課程について 徳永 豊 ・ 宍戸 和成	17
ドイツにおける特殊教育の教育課程について 當島 茂登	35
イタリアにおける障害児教育と教育課程について 武田 鉄郎 ・ 宍戸 和成	50
アメリカにおける特殊教育の教育課程について 徳永 豊 ・ 松村 勘由	83
フランスにおける特殊教育の教育課程について 棟方 哲弥	87
IV まとめと今後の課題	91